

# INSPIRE No.28

## 第4回ギフトッド教育カンファレンス2017 パッションプレゼンテーション参加者説明会

日時：4月22日(土)

時間：13:00 - 15:00

場所：スクエア荏原 第3小会議室 in

お問い合わせ：[office@jagifted.org](mailto:office@jagifted.org)

## ギフトッド教育ワークショップin名古屋

日時：5月7日(日)

時間：13:00 - 17:00

費用：5,000円

人数：定員10名

対象者：保護者、教育関係者

場所：カネジュービル第2会議室

住所：愛知県名古屋市中村区則武1丁目2-1

カネジュービル

お申し込み：[office@jagifted.org](mailto:office@jagifted.org)



先日、サンフランシスコベイエリア、サンマテオ市にあるギフトッドサポートセンターでワークショップを開催してきました。ギフトッドの子育てをされているアメリカ人の保護者の方々に多く参加して頂きました。最近のバズワードは子供の”Growth Mind”の育て方らしく、子供への言葉かけに興味を持たれていました。言葉がけは難しいですね。子供の取り組み方が大きく関係する言葉がけの場合が多いので、子供がこういった取り組みをしているかにもよって言葉がけが変わってきます。しかし、大切なのは、子供自身が自身にどんな言葉がけをするかです。「現実に見合っていないフィードバック」をする子もいます。例えば、できていたり、よく頑張っているのに、「全然ダメ」と。逆の場合もありますよね。できていないし、頑張ってもいないのに、「良くやったし、凄い頑張りました」と。でも、その頑張りも、1学期通しての長いスパンの頑張りではなく、24時間以内や週末だけの頑張りなどの場合があります。だから、言葉がけより大切なのは「現実に見合ったフィードバック」を子供自身が出せるように、適切な質問などをして、色々な角度から、子供が自分を見る事ができるように育てることで。みなさんはどんな質問を子供たちにしていますか。そして、子供たちは多面的な視点で自身を見て、現実に見合った適切なフィードバックを出していますか。  
NPO法人Feelosopher's Path Japan 今瀬



## 絶対的善！

ギフトッドと普通の子供たちとの違いは何だろうと考えたことがありますか？まずは知能が高い、勉強が出来る、ユーモアがある、アートの才能、抜群な運動神経、リーダーシップがある、非同期発達、アレルギーやチックのある子が多い、感覚過敏等々……、特徴を上げたらキリがありません。それぞれ脳のタイプも性格も身体も違うギフトッドです。これって普通の子も持っている特徴なのでは？さらに混ざっている2E（ギフトッドであり発達障がいや学習障害を持っている）や、もしくは現時点で才能開花してないと、どこがどうギフトッドなの？うちの子はギフトッドじゃなくて知能は高いけれど、なんの取柄もない子供なんじゃないの？と、母はつい近視眼になって我が子さえも良くわかりませんよね？この諸説は、ある方の大発見ですが、かなりなるほど～な発見です。

ハイ、表題どおり決定的な違いとは、「絶対的善！」という特徴です。

????何それ？と今の時点はピンと来ないかもしれません。この偉大なる特徴はギフトッドの生まれ持った脳の特徴で、成長とともに消えることは決してありません。生まれてからずっと絶対的善なのです。

さらに、自分さえよければいいといった利己的な発想はないので、自分の辛く切ない体験や失敗でさえも、相手を思いやる気持ちを忘れずに犠牲となり次世代に伝えます。偉人ならばそれを糧に、大改革や大発見や大発明に繋げています。偉人まではいかなくとも、ギフトッドは子供時代からずっと一貫して、ひとのためになる何かを、モノや言葉や行動や、記憶や記録等を強烈な印象として、相手の心に焼き付けるような気がするのです。

例えば、みなさんも我が子のエピソードを思い出してください。もし、普通の子供たちが逆の立場ならば、我が子と同じことが出来るかな？絶対に出来ませんよね？

また、普通の子供たちが絶対的悪というのは、言葉はマイナスですが生きていくために必要な、したたかさやしなやかさの事だと思ふのです。自分がみじめにならないため、頑張るため、世知辛い世の中を渡り歩くためや知恵をつけるためには、イジメ・嫉妬・妬み・ズル・意地悪・ライバル心・競争心・比較・自己防衛・責任転嫁・逆ギレ等々、自分を肯定するために絶対的に必要なのがこの「悪」という特徴なのです。いいのか悪いのか、ギフトッドにはこの悪という特徴が、完全に欠落しているように感じるのは私だけでしょうか？それとも我が子だけの特徴なのでしょうか？

リトマス試験紙のようなこの特徴、さてあなたのお子様は絶対的善ですか？それとも悪ですか？

- M.I.



6月10日、11日に第4回ギフトッド教育カンファレンス2017が開催されます。2日目にはパッションプレゼンテーションがありますが、先日、パッションプレゼンテーションに参加希望の子供たち向けに説明会を開きました。アメリカの文房具店なら、10ドルくらいで売られているTrifold（3つ折りボード）も、日本のアマゾンで同じものが、10,000円くらいで売られています。20個も揃える予算はありませんので、アメリカから持って帰ってこようかと思っていたのですが、日本で探すことにしました。それは、結局アメリカでしか手に入らないのであれば、カンファレンス後に、参加者の子供たちが「やりたい!」と思っても、日本では手に入らないので、同じ寸法で、某ダンボール店でカスタム作成して頂きました。ポスタープレゼンテーションは基本的にはポスターのみですが、パッションプレゼンテーションは違います。もっと、自分の情熱を共有するために色々な要素を加えることができます。参加者の方もきっとそこで体験ができることだと思います。

情熱に向き合うのに年齢は関係ありません。色々なことを考えなくてはなりません。タイトルもそうですが、フック（注意を引く言葉）もそうです。どんな言葉をかけたら、参加者の人が足を止めてくれるか。止めてくれないと、情熱は共有できませんから。どんな物を使用して、参加者の方々に自分が興味を持って取り組んでいることを伝えることができるか。

建設的なフィードバックもパッションプレゼンテーションの醍醐味です。アドバイスを建設的にとり、自分の情熱に取り入れる人もいれば、批判的に取り、まったく取り入れない人もいます。今回は、「Two Starts and One wish - 二つの星と一つの願い」という方式で、参加者の方々がプレゼンターの皆さまに建設的なフィードバックを提供することができます。プレゼンターがそれぞれ準備する用紙に、プレゼンターの2つの魅力的な点、そして、こうしたら良いのかもという願いを1つ書くことができます。パッションプレゼンテーションは色々な意味で、ギフトッドの登竜門でしょう。ただ好きなことを発表するだけではありません。参加者募集中です。ぜひ、チャレンジしてください！お申し込みはoffice@jagifted.orgまで。



## ホームスクールの基礎になる、教育哲学は、母と子の問答で、「ビジョン」と「ミッション」が定まりました

「ビジョン」は向こう3、4か月の目標、「ミッション」は目標を達成するための日々の具体的な課題です。教育哲学は、総じて24の領域があり、このすべてを埋めることができれば、1つの学校を構えられる礎を持つことになるそうです。息子はこの話をしたとき、ただただ家で学習しているというのではなく、自分のオリジナルの学校（学び）を打ち立てていくんだなということに喜びを感じたようです。

### 私も同じく、誇りをもってホームスクールを始められるということを思いました。

24それぞれについて問答して、自分だからこそその答えを子ども自身が導き出していきます。

「こうしてね」「ああしてね」と親から子に教え込むのではなく、親はあくまで問いかける！ 対して子ども自身は思案することが大切にされています。

どんなことを問うているのかというと、例えば「ビジョン」（目標）を定める場合。夏にアメリカのサマーキャンプに参加する予定があり、そこに向けての準備、どう自分を育てていくかということをも母はテーマに選びました。

### 今のままの息子ではなく、数か月先に成長した息子がちょっぴり背伸びして取り組めることを予定として組みます。

その数か月先までいかに成長するかの部分について話し合っていきます。

以下のようなやり取りを持ちました。

母 「この夏、FPアメリカの子どもたちに会う時、どんな自分になりたい？」

同じことを尋ねるのにも、より子どもが主体的な姿勢で受け取れることばがあります。先生にことばを置き換えてもらうこともあります。

先生 「どんな自分をFPアメリカに見てもらいたいかな？」

息子 「優しい自分」

母 「どうして優しい自分でいたいの？」

息子 「コミュニケーションをとるために」

母 「優しいとコミュニケーションが取れるの？」

息子 「辞書を使ってもわからないことがある。でも優しさがあると、伝わるんじゃないかと思う。」

母 「伝えたいことがあるのね？」

息子 「うん。英語を覚えたって、覚えきれない。先生だって18からアメリカに行っても知らない英語があるもん。」

母 「大事なものは知っている言葉の数じゃないってこと？」

息子 「そう」

母 「知っていることより大事なものは？」

息子 「コミュニケーション」

母 「コミュニケーションって？」

息子 「・・・」

母 「言葉だけではない??」  
息子 「うーん」  
母 「難しい言葉がわからない妹に、いつもどうやって伝えている?」  
息子 「これだよって実物を見せたり」  
続きますが長いので割愛です。

その後「より良い関係でやり取りができる」「自分も相手も楽しい」というキーワードが出てきました。最終的には「自分とやり取りをしてハッピーになった人が、さらに誰かとつながりハッピーが広がる」というイメージに深まり、彼は「コミュニケーションからハッピーを広める明るい自分!」をビジョンとしました。

文字にしてみると、とてもあっさりとした答えが出てきたようにも見えますが...

実際の間答は、そんな簡単じゃないだろうとご想像される方がいらっしゃればその通りで、山と谷を走行し逆さまにもなるようなジェットコースターです。

激励しながら、やっとたどり着いた坂の上。

転がるように混乱してひっくり返る相手に届かずに果てることはも多々あります。

子どもの思案が止まれば、そこで親ももうひと思案。

少しずつ話の内容を深めていけるように。

問いながら思考をやわらかく導くかんじです。

これは相当に難儀です。

## まずは親の思考のかたさをとる必要があるではないか...

でも容易くなくて当然です。自分たちのオリジナルの学び、その基礎が簡素では危なっかしい。苦悩のしどころです。

答えにたどりつく間のにらみ合いも、泣いて収拾がつかないことも、しばらく距離を置きたいということだって生じてきますが、全て通過点です。

## 課題に向き合う中で生じていることは、過程の上に乗れているからこそ。

ただただ感情を適宜対処です!

感情と向き合うことも組み込まれてきます!

これは、ギフトッドの育ちにおいて欠かしてはならない学習より大切なこととして、FPにおいても最も重きをおかれていることのひとつです。

## 今このときの感情を意識すること。

(これって大人になっても、いくらでも揺さぶられて、人間の一生の課題です!)(と私は反省も含め感じています。)

自分の感情に責任を持ってお世話をしたり、感情の持ち主である自分を大切にしていけると、それはいつか他者への思いやりに育っていくのだと思います。



もし私が問答の過程を経ずに、「コミュニケーションで周りの人をハッピーにして！明るくね！」って提案だけをしていたら、二人して問答のジェットコースターには乗らずに済んだと思います。ですが、自分のこととして想像してみても、「明るく」ということばがもたらしてくるものは、ひだまり程度でまぶしさを感じる私には心情的にとっても重たい。

やわらかくあたたかくということなら、私の心にフィットします。

フィットしないことばで人に言われたままを実践するということに奮起できるでしょうか。

各々想いにフィットすることばがあり、実践に結び付くことばがあります。

ことばのイメージに関してだけでも問答する価値があるように思います。

こうして時間をかけて遠回りに見える問答をあえて”今”すること、子どもが自ら考える過程を省かないことは、子どもの人生まで俯瞰してみたときに最重要事項と言って良い理由があります。

**子ども自身が主体的に取り組む「気概」が育っているかということがとても大切だからです。**

与えられ渋々やらされていることを仕上げたとしても、次のチャレンジってしたくなるでしょうか。「やれやれ」と解放されたい方向へ思考も行動もシフトしていきそうです。

思考を深めて自分の内側から選び取ったことに向かう時、子どもは嬉々として取り組む姿を見せるように思います。自分が選択したということです。

チャンスを自分に与えたことが、すでに自分の思考の成果でもあります。

**そんな取り組みを達成したときには、子どもも自身の成長を実感できて、次のチャレンジに向かっていきたくするような”私”が芽を出してくるのではないのでしょうか。**

それは”私”の人生を豊かにしていく芽です。失敗を体験したときにも自分の選択かそうでないかで、関わり方の意識も変わってくるように思います。

ここで気を付けたいことがあります。子どもが自ら自分の為すことを考えるというのは、「子どものやりたいことをする」「やる気に任せる」ということではありません。取り組み方が重要ということです。

やりたいことだけに向かうことから角度を変えると、やりたいことの外にある新しい何かに出逢えるかもしれない。やる気は、今この瞬間だけのバロメータにすぎない。今も今までも、どうしようもなくどんよりとしていたとしても、もしも、あえて一步踏み出してみても、違う気持ちに出逢えたら？新しい気持ちや何かに出逢うことは大切だと思うんです。例えば私たちは何かしらのラベルを貼ったり貼られたりしていて、そのラベルが自分を苦しめるものであったとき、

それが全てではないという事実気がつけるかということが、苦しみを手離す鍵だと思います。

「たったひとつの場所で、そこで自分自身の価値を決めてはいけないよ」って、息子が今瀬先生に言ってもらったことばです。

## 可能性に触れられるチャンスを自分あげる。

それはやりたいことの中だけ、今やる気を持てることだけからは見つからないかもしれないから限界を感じているのは今までの私だけかもしれないから。FPでは「湧活」ということばがあります。私はこのような取り組みが湧活と言えるのかなと解釈しています。

FPでは、ホームスクールにおいても冒険においても、子どもたちの日々の活動の中で湧活が実践されていると感じます。さて問答は、どこでどんなふうにするかも重要です。

## 我が家は、行き詰まりそうな予感がするほどに、家から出て話し合います。

そばには美味しいものを置いて。お互いになるべく心地よくいられる場所を意見しあって、場所を絞りこんでから出かける日もあれば、とりあえず出て車を走らせながら「ここだ！」って直感で決まる時もあります。

最近では「天気が悪いから、せめて窓が大きくて開放的で明るい場所にしよう」「時間がかかっても疲れないように、包まれるように座れるソファがあるといい」「体にやさしいメニューがあるカフェがいい」など候補を絞っていき、予算に見合う店を選びました。

海まで行っちゃうとか、家から出られないような時には、部屋の中で小さなテントを立てちゃってその中に潜り込んでとか、お互い寝袋に入って並ぶとか、釣り堀でとか、ひたすら歩きながら、バスを乗り継ぎながらとか、お互いにその日にフィットするところを探すといいなと思います。会議は会議室で。勉強は勉強机で。そこから離れてみるのも思考のこりをほぐすマッサージになるのかもしれません。

そうは言っても、出かけた先でも行き詰まるのですけど。過日のカフェにおいても。そんなときはお茶を飲んだり。三横指を超えるほどに厚いサンドイッチにかぶりついたり。外の空気を吸いに席を立ったり。店員さんに「今かかっている曲の名前を教えてください♪」など母が突然に尋ね、息子が目をまるくしたり。いやこれも何気なく、まさに現テーマである”コミュニケーション”を実践する姿を見せているのです。

## 問答がまだ途中の領域は、とにかくまず埋めるのではなく、場合によって青写真は空白で始めます。

ホームスクールの活動をしていく中で、自ずと答えが定まってきたり、ひらめいたりすることもあると思います。あわてないで、じっくりです。問答は思うようになりません。子どもは、何も答えられないような日があるし、こちらは何をどう尋ねればよいのか見えてこない日もあります。

ホームスクールに絶対的な締め切りもないですが、じっくり数年かけてビジョンが見えませんでした！ということでは親も子も辛いので、タイムラインは決めると良いと言われます。タイムマネージメントが苦手な母子。我が家の弱点、タイムライン！それは今少しずつのアイテムを用いて身に付けようと頑張っております。（長い目でみていこう...。）

子どもも親も、これは湧活だろうかという視点を大事にしていれば、百人いれば百通りのホームスクールがあって良いですね！きっと子どもによって進み具合も進め方も違います。

ホームスクールですから！

- 七堂